

市長は国体出席のため  
東京に出張中だった



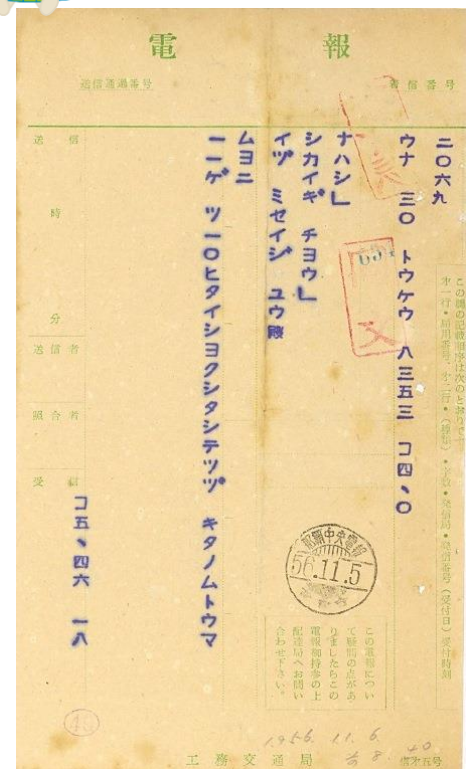
## ～当間重剛市長の辞職～

1956年11月10日、第15回議会（臨時会）が急遽開かれました。琉球政府行政主席の比嘉秀平氏が急逝し、その後任として当間重剛市長が米軍から任命されたためです。

通常、市長が辞職する際は20日前までに議長に申し出るか、議会の同意を得る必要がありました。今回任命が発表されたのは1日、国体に参加するため出張中だった当間市長から退職申出の電報が届いたのが6日、行政主席就任は11日、という慌しいものでした。

この臨時会に市長は出席しておらず、議員からは、一言の挨拶もなく、米軍に任命されたからと言って市民に選ばれた市長の辞職を電報一枚で認めるのか、といったような意見も出ましたが、異論はなく形式的に辞職は認められました。

その後、次期市長には米軍の意に沿わない瀬長亀次郎氏が当選し、市議会は波乱の年を迎えることとなります。



退職を申し出る当間市長からの電報  
ウナ…至急電報の意。 ムヨ…同文電報の意。

## ～一番長かった議会～

82日間。これは、1957年に開かれた第20回定例会の会期日数です。1948年まで遡って調べた限りでは、9月10日に開会し、11月30日に閉会したこの議会が最長となります。

何故こんなに長かったかというと、当時の瀬長亀次郎市長に対する不信任を巡り、休会、流会、会期の延長に次ぐ延長があったためです。当初の予定だった19日間を大幅に越え、議会の機能を麻痺させた82日間でした。「市政を放ったらかすことはゆるせない、市長派も反市長派も責任を問われねばならぬ」と当時の新聞は綴っています。

最終的には11月25日に不信任案が可決され、瀬長市長は失職、市長代理者を選任して議会は進み、第20回定例会は閉会することとなりました。



11月25日に市長不信任案を可決した市議会

(那覇市歴史博物館所蔵)